たまシネマ通信 ―映画祭特別号―

映画祭実行委員おススメ映画のご紹介！

『百万円と苦虫女』（タナダユキ監督/2008 年）

短大卒業後、アルバイト生活を送っている主人公の鈴子。ひょんなことから事件に巻き込まれた彼女は、家族のもとを離れ、百万円が貯まるたびに誰も知らない土地へと移り住むことにする。“人”とうまく付き合う事ができない彼女とさまざまな町の人々の心の交流が描かれる。

現実に起こりうるけれど自分の身に降りかかってくるとは信じがたい驚きの展開と、生活の匂いがするリアルな空気感のバランスが心地よいです。淡々としながらも、クスッと笑えたり、ちょっと泣けたり、逞しく生きる鈴子の姿に元気づけられる作品です。（こ）

『長いお別れ』（中野量太監督/2019 年）

父 70 歳の誕生日。久しぶりに顔を合わせた 2 人の娘に、母は父が認知症であることを打ち明ける。

実体験をもとにした小説が原作というだけあって、当時、認知症の家族を持っていた私にとっては随所に散りばめられた共感ポイントで泣き笑いの連続でした。

じわじわと確実に進んでいく認知症。頓珍漢な会話に予測不能な行動。苛立ちややるせなさの募る日々の中に、ふっと気持ちの通じ合う瞬間や笑顔になれる些細な出来事に心和ませる。そんな一瞬一瞬を丁寧に、そしてコミカルに描いています。

今や 65 歳以上の 5 人に 1 人がなると言われている認知症。誰の身にも起こりうる決して綺麗ごとでは済まされない現実を、自分ならどう生きるか改めて考えさせられる作品です。（つ）

『回廊とデコイ』（小林賢太郎監督/2023 年）

回廊はぐるぐるとループする。デコイは狩りをするときに使用するオトリという意味です。日常の中に起きる非日常な出来事。非日常な世界ではそれは普通の出来事なのかもしれない。小林賢太郎監督の描く、美しくて面白くて、どこか不思議な世界を体験できます。映画初主演となった松本亮さんの雰囲気のある演技が好きです。

脇を固める久ヶ沢徹さん、竹井亮介さん、辻本耕志さん、南大介さん、高崎拓郎さん、加藤啓さん、伊勢佳世さん、小林きな子さん、各々キャラが立っていて目が離せません。

もともと小林監督脚本の演劇を観るのが大好きでしたが、この映画は舞台版とはまた違う面白さがあります。舞台はもちろん、映画監督としても、これからも楽しい作品を作り続けてくれることを期待しています。（KU）

『フラガール』（李相日監督/2006 年）

福島県いわき市を舞台に炭鉱産業が寂れゆくなかで町の復興をかけて新事業の常磐ハワイアンセンターのあゆみをフラガールの踊りを通して知る。

素晴らしく大きなものを築き上げていく時、みんなの思いがひとつになれば成し遂げることができると分かる映画です。また、この映画をより一層理解して観るのに、おすすめの場所があります。いわき市にある博物館「いわき市石炭・化石館ほるる」です。この映画の脚本がいわき市の歴史に沿って丁寧に作られていることや炭鉱の人達の思いを深く理解することができます。興味のある方は、ぜひ足を運んでみてください。フラガールの映画の素晴らしさが分かると思います。（し）

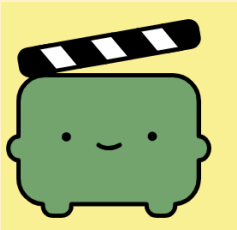
『フレンチアルプスで起きたこと』（リューベン・オストルンド監督/2015 年）

フランスのスキーリゾートにやってきたスウェーデン人の中流階級の家庭が、ある出来事がきっかけでじわじわと崩れていく様をブラックユーモアを交えて描いたドラマ。

この作品のすごいところは、劇的なことは起こらないのにとにかく「重たい」。他人事だと笑っていられない。ある意味ホラー作だが、どちらかと言えばコメディという、絶妙なバランスの内容なのだ。

家族サービスで来た旅行で恥を晒したくない夫。夫を受け入れられず徐々に取り乱していく妻。そして板挟みになる子供たちと知人夫婦。きっと誰かには感情移入してしまうだろう。

ちなみに、今年話題になった『落下の解剖学』の監督もこの作品がお気に入りらしい。両方観たことがある人は「なるほど」と思うだろう。（AO）



映画祭実行委員おススメ映画

『舟を編む』（石井裕也監督/2013 年）

出版社編集部員・馬締さんが、辞書編集に奮闘する中、下宿先で出会う香具矢さんに抱く初めての感情。

言葉のプロだからこそ、真面目な人だからこそ、その想いの伝え方に悩みます。彼の姿人柄は微笑ましく、ストレートな想い程、真っ直ぐ伝わる物だと痛感させられます。本作以降も様々な形で活躍する、松田龍平さん、オダギリ ジョーさんが凄くいいです。

この作品で辞書を見る目が変わり、わたしも「言葉」を大切に人に伝えたいと思うようになった大好きな作品です。（れ）

『プリシラ』（ステファン・エリオット監督/1994 年）

エルビスの『プリシラ』ではなく、1994 年公開のドラッグクイーンの方の『プリシラ』です。3 人のドラッグクイーンが、公演のための目的地へ、大型バスで向かう道中を描くロードムービー。

奇抜で色鮮やかなドレスとウィッグで、80 年代の名曲を踊るダンスシーンは、30 年経った今観ても、この上なく楽しい！　何より、オーストラリアの広大な砂漠の景色の中で、ひらひらと舞う銀色の衣装でオペラを歌うシーンは圧巻。ぜひ一度大きなスクリーンで観てみたいものです。3 人はいつでも陽気で逞しいが、何かを背負いながら生きる姿には時折哀愁が滲み出て、そこが切なくて、とても愛おしい。

観る度にいつも元気がもらえる映画です。（伊）

『壬生義士伝』(滝田洋二郎監督/2003 年)

多くの時代劇映画の中で幕末の国勢を表現する作品として、新選組といえば数々の武勇伝を描いているものが目立っています。その中で、単なる英雄伝とは異なる物語として、新選組屈指の剣豪である一方、家族のために守銭奴とも言われた主人公吉村寛一郎の生涯を明治となった関係者や新選組生き残り「斎藤一」の思いを含めて表現されています。貧困のため、脱藩したが故の「義」の貫き方を描いた浅田次郎の原作を中井貴一が凄まじく演じた作品です。

戦いで負傷した身で幼なじみの南部藩家老屋敷で最期を迎えるとき、故郷や家族それぞれへの想いを感じることが出来ました。久石譲の音楽も心に残るものがあります。（恭）

『Pearl パール』（タイ・ウエスト監督/2022 年）

「映画」は様々な憧れを喚起し、観客に無用なや希望、救済を見出させてしまう。これは時に残酷な事態を招くのだが、ご承知の通り中々抗い難い。この映画の主人公パールもそんな映画の犠牲者の一人である。

華やかな世界を夢見て、自分がスターの仲間入りを果たすのだと信じて疑わない。だからこそ手のひらからこぼれ落ちていく幻想を、無理にでも拾い集めようとする彼女が見せる行為と表情には、恐れとともに共感を抱いてしまうのだけれど……。

「いいえ、以前私は確かに映画に救われました……」そんな映画に呪われてしまったあなたも、完膚なきまでの挫折をパールと一緒に経験してほしい。（g）

『インビクタス／負けざる者たち』（クリント・イーストウッド監督/2009 年）

アパルトヘイト撤廃後も人種間差別が色濃く残る南アフリカを舞台に、同国ラグビー代表チーム（愛称スプリングボクス）の奮闘を実話をもとに描く。

ラグビーが話題の中心ではあるが、ラグビーをよく知らなくても問題ない。物語の主題は普遍的な和解や融和であり、その道程だからだ。

ただもし可能であれば、映画を観終わった後ぜひ実際のスプリングボクスの試合を観てもらいたい。本作はあくまで実話をもとに脚色を加えた「お話」だが、さまざまな肌の色の人々が、ひとつの国歌を誇らしげに歌うさまは、この映画が単なる「お話」ではないことを実感させてくれるだろう。（米）

『キャッチ・ミー・イフ・ユー・キャン』（スティーヴン・スピルバーグ監督/2002 年）

詐欺師フランク・アバグネイルの実話を元にした作品です。

天才詐欺師フランクの大胆かつ繊細な詐欺に目を奪われ、フランクと FBI 捜査官カールの追跡劇に興奮します。また、追う者・追われる者として始まった二人の関係の変化も見どころです。複雑な家庭環境ゆえに罪を犯してしまったフランクですが、フランクはただただ両親を信じ、愛していたんだなと切なくもなります。

フランクを演じているレオナルド・ディカプリオがとても魅力的です。(E)

映画クイズ

答えはこの冊子のどこかにあります

Q1.『カラオケ行こ！』で主人公の狂児が練習していた曲のタイトルは？
Q2.『ルックバック』で主人公ふたりのペンネームは？
Q3.『夜明けのすべて』で主人公の藤沢さんが歩きながら食べていたものは？
Q4.『侍タイムスリッパー』の主人公、高坂新左衛門はどこの藩の所属だった？
Q5.『ラストマイル』で、共有する世界観を持つドラマ２作品の名は？
Q6.『温泉シャーク』に出てくるサメは全部で何匹？

映画祭実行委員おススメ映画

『生きる』（黒澤明監督/1952 年）

市役所の市民課長として、書類にハンコを押すだけの日々を過ごしていた主人公渡辺勘治が、とある出来事をきっかけに、己の人生の意味を探していく物語。

その題名のとおり、「生きる」とはどういうことか、何をもって生きているといえるのか、人生について考えさせられる作品です。1952 年の映画ですが、人間の本質を捉え、普遍的なテーマを描いているので、今観ても全く古さを感じず、現代人でも（むしろ色々なしがらみのある現代人の方が）楽しめるものとなっています。

物語の転換である「ハッピー・バースデー」の演出は心震えます。

人生に迷ったとき、「本当にこのままでよいのか」と思ったとき、ぜひ観てほしい映画です。（ま）

『パターソン』（ジム・ジャームッシュ監督/2016 年）

映画『パターソン』は、ニュージャージー州パターソンに住むバス運転手パターソンを主人公とした物語です。彼は毎日同じルートを走りながら、作詩をします。彼の生活は、愛する妻と愛犬との穏やかな日々を中心に展開され、彼の詩や周囲の人々とのふれあいを通じて、日常の美しさが表現されます。

なんの変哲も無いように思える私たちの日常にも、素敵なことが沢山含まれているのかもしれない。生きるのが少し楽しくなる作品です。（凜）

『マッドマックス 怒りのデス・ロード』（ジョージ・ミラー監督/2015 年）

荒廃した近未来を舞台に、恐怖と暴力で民衆を支配するイモータン・ジョーに対して、愛する者を失ったマックスと反逆を企てる女性戦士フュリオサが連帯して戦う物語。

本作は、有害な男らしさを持つジョーと、ジョーに捕らえられた女性たちと逃走するフュリオサの対立構造がある。最終的にはフュリオサが勝利し、自由を獲得することから、本作はフェミニズム映画だとも言える。

近年、2017 年に活発となった「#MeToo」運動の影響でフェミニズムを描く作品が多くみられるが、本作は 2015 年に製作されたことから先鋭的な映画であると感じる。

また、男性のマックスと女性のフュリオサが連帯することで、性別間による対立ではないことを示し、社会的な分断が進む私たちにとって重要なテーマを提示する。（昌）

『Love Letter』（岩井俊二監督/1995 年）

婚約者を亡くした渡辺博子が、彼がかつて住んでいた小樽に届くはずない彼宛の手紙を送ったことから始まる物語。今年公開された『青春 18×2 君へと続く道』で、この映画のことを知ったり思い出したりした方もいらっしゃるのではないでしょうか。手紙のやり取りを通して、過去の思い出を振り返ったり、あるいは、そこから脱していく過程は、手紙文化がなくなりつつある現代でも、否、現代だからこそグッとくるものがあると思います。少し切ないけれど、最後には心がじんわり温まる素敵な作品です。（た）

『劇場版　荒野に希望の灯をともす』（谷津賢二監督/2022 年）

中東アフガニスタンで現実を生きることに難しさを抱える人々に、中村哲という人は愛をもって人々に寄り添い続けた。その半生を記録した膨大な映像（実践）と手記に遺された人間味あふれる言葉をもとに作られたのが本作品である。

混迷を極める世界の現状を憂う昨今、すべては日々の小さな出来事の連なりが基となっているのだと思わされる。そして、人や自然とどのように向き合っていったらよいのか、この映画がそれを教えてくれた。（良）

『パリの灯は遠く』（ジョセフ・ロージー監督/1976 年）

今年亡くなったアラン・ドロン。彼の主演作で 1 番のおすすめ。ドロン本人も、この作品を「誇り」と語っている。

1942 年パリで起きたヴェル・ディヴ事件を背景に、同姓同名のユダヤ人と間違えられた男が、疑惑を晴らすため同名の「クライン氏」を探していくうちに、引き返せない所へ迷い込むサスペンス。

邦題からメロドラマを想像するかもしれないが、その対極にあるようなトーンで展開され、不条理さも感じられる。セリフによる説明があまりなく、画面に映る名刺、カミソリ、本などどれも意味があり、見逃せない。

メインの物語の間に挟まれる何かを準備する様子の、それが何であるかが判明した時と、観た後に肝が冷える。

現代の世界情勢に照らし合わせることもできる作品。（瀧）

映画祭実行委員おススメ映画

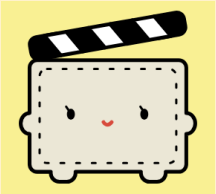
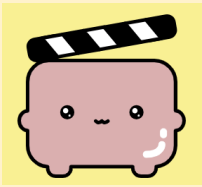
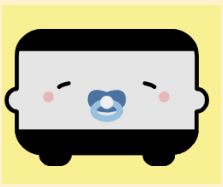
『聲の形』（山田尚子監督/2016 年）
　私が好きなアニメーション映画の中でも、特に印象が強い映画がこの『聲の形』です。
　障害やいじめがテーマのこの映画は、リアルな表現を用いて社会の問題を表現します。人との関係の持ち方やコミュニケーションの仕方それぞれに多くの課題があり、時に誤った方向へ進み後悔する。
　現実味のある話に、どこか共感させられると同時に、どうすればこの問題を解決できるのか考えさせられます。
　ぜひ、この映画を観ることでこの社会問題を考えるきっかけにしてほしいです。（安）

『きみの色』（山田尚子監督/2024 年）
　誰も悪くは無いけれど、自分の中のモヤモヤがなくならない。そんな経験はありませんか？『きみの色』は、そんなモヤモヤを抱えた３人の少年少女がひょんなことからバンドを組むお話です。
　本作の主人公、トツ子は人が色で見える共感覚を持つ女の子です。そんな彼女の視覚を通して見られる色彩をはじめとした、美しい映像と音楽が本作の大きな魅力になっています。熱い青春ストーリー！という感じではありません。しかしその分、老若男女問わず、多くの人の心に刺さる作品となっているのではないでしょうか。観終わった後、心や体がポカポカするような映画です。（N）

映画大喜利！

今回のお題：
**　あなたは意にそわない相手から最新のヒット恋愛映画に誘われました。相手を傷つけないようにうまく断って下さい。**

回答と相手を傷つけない度（5 段階評価）：
・私の恋愛映画はまだクランクインしていませんので、いつかクランクインしたら観に行きますね！☆☆☆☆
・私、サメ映画しか観ないんです。☆☆☆☆☆
・席は列の端と端に取りましょうね。キープディスタンス！☆☆☆
・お互いがゾンビになった時に是非。☆☆☆☆
・もっと派手な映画を観ませんか？そうですねぇ……死人がゴロゴロ出るような映画です。☆☆☆
・恋愛映画は苦手ですが、恋愛相談なら乗れますよ。☆☆
・笑笑笑笑笑笑笑笑笑、苦笑。☆
・最近のテレビって中に入っているのが大変ですね。ブラウン管テレビの時代は良かったなあって。あ、あたし本当は貞子です。☆☆
・私、映画とコンサートは誰と言ったのか忘れてしまうのですが、一緒に行くのは私でいいですか？☆☆
・「世界の中心で AI を叫んでいいですか？　Ok,google 」☆☆☆
・すごく行きたいんですけど、あなたといっしょに映画に行くと１０００年後に地球が滅亡してしまうんです。あ、あたし、未来から来たタイムパトロールです。☆☆☆☆

映画クイズ答え
A1.「紅」
A2.藤野キョウ
A3.みかん
A4.会津藩
A5.「アンナチュラル」「MIU404」
A6.正解は映画祭パンフレットで！

たまシネマ通信 2024 年映画祭特別号　発行元：TAMA 映画フォーラム実行委員会
編集・デザイン：TAMA 映画フォーラム会報部会/企画・協力 TAMA 映画フォーラム実行委員会
＊掲載記事の無断転載を禁じます。